

080516 目黒区立目黒中央中学校 視察
議事録(視察概要)

●工藤教頭先生(校舎見学前)

- ・管理せずに管理する学校。死角のない学校づくりを目指した。たとえば廊下と教室の間仕切りを透明にした。
- ・全教室をホワイトボードとしプロジェクターと実物投影機で写せる設備を導入したことで、今年から飛躍的に授業内容が広がっている。
- ・職員室はフリーアドレスとした。廊下との間仕切りもガラス張りとし見られているから緊張感がある。

●設計小室氏

- ・外断熱STO社 100mm。複層ガラス。2階以上は外断熱だがガルバリウム鋼板でおおっている。その厚み合計 300mmある。その隙間に換気口や雨どいが入っている。
- ・壁の厚みを活かして開口部には庇がついている。
- ・バルコニーは管理上の問題があるのでつけていない。
- ・工事費は平米単価25万円。
- ・OMソーラーは地下教室のカビ対策に活用した。教室内の空調設備の容量計算をする際にOMの集熱が加わると計算しにくいので、OMで温められた空気は地下の室内側の二重壁を暖めた後外部へ排気するようにした。
- ・OMの集熱量などがわかるパソコンモニターは理科室の前に設置した。
- ・クールチューブは現在、コンクリートの臭いがするということでもめている。原因と対応策を検討中。
- ・クールチューブはSMWの土留めと地下躯体の間に埋設した。ポリエチレンチューブを利用したが、埋設時に入り組んでいたため、土ではすべて埋め戻しにくいことから、流動化材で埋め戻したためではないかと考えられている。
- ・SMWの鉄骨が15m埋設されているのでその熱もクールチューブに伝わるのではないかとということで、鉄骨にチューブが触れるようにしている。

●校舎見学中の教頭先生

- ・各教室は授業が終わったら鍵をしめて締め切る。子どもたちはHBか各教科の学習エリアに滞在する。そのほうが授業と休み時間のけじめ、教室利用の区切りができてよい。
- ・六本木中学を見学に行ったが、各教科教室がホームルームに割り当てられていたので、休み時間と授業中の部屋利用の区切りができていなかった。
- ・ホームルームはホームベースで行っている。

●見学後の質疑回答

- 廣谷:環境建築とはどういうものだろうというのを伝えたい。
- ・どういう建築の使い方をしているのだろうということ計りながら見て歩いた。
 - ・外断熱の効果は以前との違いを感じるか。
- 教頭:前の校舎との比較になるが、以前は外気の影響をまともに受けていた。最上階は暑いし、職員室

は日光をまともに受けていた。コンピュータの熱もすごく冷房をつけても暑かった。

- ・この校舎になって、暑い、寒いを感じなくなった。温度も快適。
- ・前の校舎は教室だけ冷房をつけていたから、子どもたちは廊下に出たがらなかった。
- ・前の学校では子どもが主にどこに居ますかというアンケートをとった。新しい校舎ではまだ行っていない。
- ・今までの校舎では、放課後はいっせいに下校させていたが、新校舎では放課後ラーニングセンターならいてよいということにした。

北瀬:教室の窓を子どもたちが勝手に開けてはいけないようだがなぜか。

教頭:窓の開閉を規制しているのは近隣対応のため。昔の校舎では荒れていて近隣の方々が音などで困っていたという経緯がある。新校舎になってからは子どもの声が聞こえないといわれている。

高橋:教室にいい光が入るなど思う。その光が両サイドから教科学習エリアに入っているので照明は消したほうがよいと思う。

教頭:明るさというのも重要で、省エネということで電気けすと旧校舎では暗く、暗いところに子どもをいさせるとめいるということがある。トイレが薄暗いと問題がおこりやすい。明るく綺麗などところではおこらない。

- ・すべての電気スイッチをつけるのが当たり前とってしまう。すべてつけた状態がベストと考える。電気消してみると確かに昔の理科室などはこのくらいの照度の部屋で勉強していたということを思い出す。

- ・プロジェクターを旧校舎でも一台利用していたが、新しい校舎では少し見にくい。明らかに室内が以前より明るくなってはいる。

宿谷:教室は昔の基準では 200 から 300 ルクスあればよい。照度計で測ると 1000 ルクスある。照明はつけなくてもよい状況だ。

- ・二三年かけて点灯照明を減らしていけばプロジェクターは見やすくなり電気消費量も下がる。

須永:今の教室の照度基準は床下で 200 ルクス。机で 750 ルクス。

廣谷:光の質がこの学校すごくよいのもっとうまく活用するとよい。

長谷川:エネルギー利用面で以前の校舎と比較して感じることはあるか。

教頭:まだ始まったばかりなのでまだない。これから学校ISOに取り組んでいく。

教頭:縦割り行政の弊害を校舎建設に当たっては感じたし苦労した。

- ・設計サイドとのやり取りを通じて目指したのは、子どものそばで教員が管理したいので教科教員コーナーをつくり、各教科教室を透明の間仕切りとすることで教職員へのプレッシャーをつくりたいと思った。そうすると教科教室になった。最初から教科教室を作りたいからそうなったわけではない。